第一回
デジタルアーキビスト養成講座
まちなかキャンパスうえだ講座2017
未来の信州学「みんなでつくる『信州デジタルコモンズ』」
信州学の未来形

2017 7.1

長野大学環境ツーリズム学部
市川正夫

①-1信州学って何ですか

- なぜ信濃学、長野学ではいけないのか

では信州とはなにか
鎌倉時代の禅僧が言っている
1970年代の長野県の観光キャッチフレーズで一般化
信州ＤＣ、信州まつもと空港、信州大学

※なぜ信濃や長野でなく信州なのか

①-2信州学って何か

- 信州学とは長野県人だけでなく、すべての方にとって
- 信州を知りたい・学習したいと思う人に学んでいただきたいもの

①-3信州学って何か

- よくこんな質問されることがあります

1「なぜ長野県というのですか」
2「長野県は信濃と言ったり、信州というのはなぜですか」
3「どうして長野県は教育県っていうのですか」
4「なぜ長野県は長寿県なのですか」
5「どうして長野県県庁は、位置的に中心にある松本にないのですか」

※あなたはいくつ答えられますか。その前にこのような長野県についてのふしぎや疑問をいだいたことがありませんか。

①-4信州学って何か

- 日本各地に地域学と呼ばれるものは、地域の数だけある
  横浜学　東北学　神奈川学　他多数
- そのため定義などはない
- 私が思う地域学とは、その地域のふしぎや疑問から発するもので、少しでもその問いが解けることが重要。そう考えると皆様も信州についていくつものふしぎや疑問が思い浮かぶのではないでしょうか。そこから信州学をはじめてみませんか。

②-1　長野県とは信濃・信州というのはなぜか
まずシナノノクニの語源から

①いつまで信濃国だったか
　明治四年(1871)廃藩置県で長野県になるまで
②いつからシナノノクニになったのか・・明確でない
　持統八年(694)～和銅三年(710)まであった藤原京跡から
　「科野国」の木簡が出土、ヤマト朝廷が国制を施行した時期と同じ
③「大宝律令(大宝元年、701)」の国印(国司が公文書に使用される各国の印章)には「信濃国」
④『古事記（和銅五年、712）』ではすべて「科野国」
⑤『日本書記(養老四年、720)』では一部を除いて「信濃国」
　※これにより8世紀初めには信濃国は用いられる
　現在、信濃史学会、信濃毎日新聞社、信濃教育会

屋代遺跡からの信濃の国の木簡

「科野」と書かれた藤原宮木簡（長野県立歴史館提供）

②-2 信州や信陽とは

「信州」とは
・信濃の略語であり、平安末期から鎌倉時代禅僧が使用した。
・1970年代の長野県観光のキャッチフレーズ「さわやか信州」で全国区に知られる。信州大学、信州博覧会

「信陽」とは
・鎌倉時代禅僧が使用した
・太陽の恵みが豊かな明るい国。信陽新聞
※近年、「信州」の使用が多いのは、耳障りが良い・聞いた感じが良い・馴染みやすさが優先か

②-3 シナノノクニの語源とは

①江戸時代の国学者賀茂真淵が『信濃地名考(安永二年、1773)』に「信濃国はいにしえは科野と書く。その科のことを多く見ゆ。山国にて階(しな、級)坂あれば地の名となりけむ」と、科は険しい、坂は峠を意味する。険しい峠、更級・埴科・保科・妻科

　古代碓日坂（旧碓氷峠、現在の入山峠）、神坂(神坂峠)、県坂(鳥居峠)

②篠竹説、『万葉集』ではシナノの枕詞は「水篶(みすず)刈る」でこれは篶竹のことで、篠(しの)竹とも呼ばれた

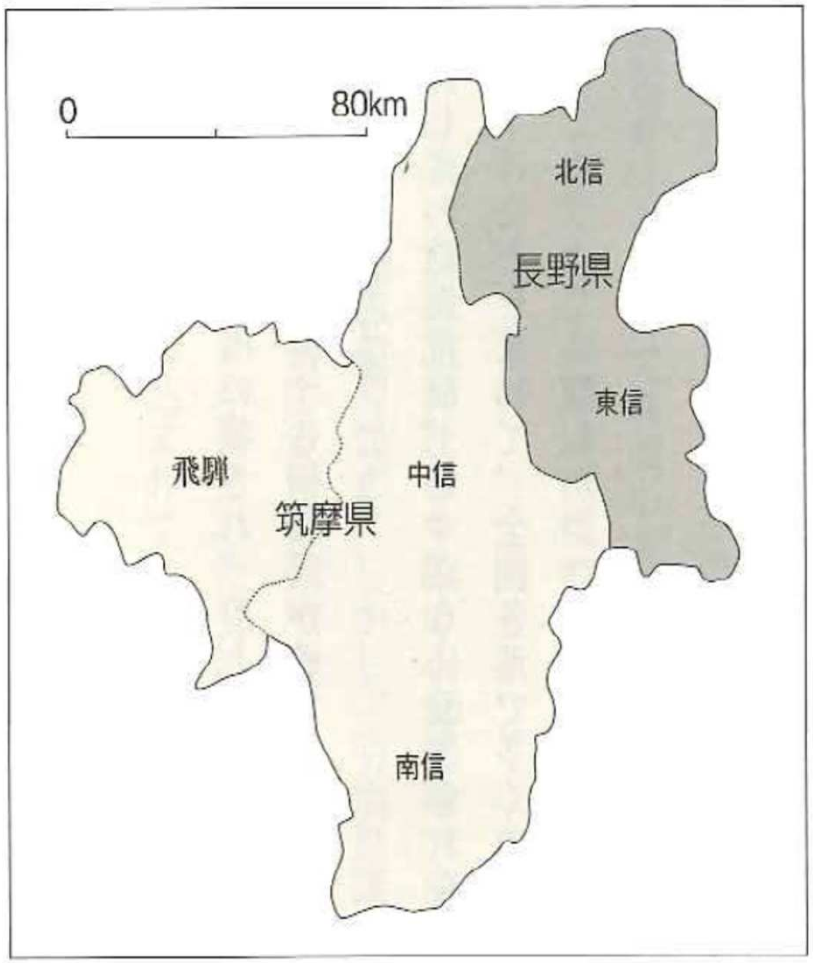
③シナノキ説。『千曲之真砂(宝暦三年、1753)』「信濃と号する当国には科の木があり、この木の樹皮をはいで諏訪大社の神事に用ふることあり。よって信濃国と名づくる也」科野国にはシナノキが自生していた。

③-1 なぜ県北部の長野市に県庁があるのか　位置的に中心部の松本に県庁があっても

長野県の誕生と筑摩県の解体

- 慶応四年(1868)信濃の幕府領を直轄する伊那県が設立
- 明治三年(1870)伊那県から行政確保のため中野県の設置
- 同年中野騒動で中野県庁消失
- 同四年消失した中野県は不便とし長野県と改称し、善光寺町に庁舎を移転。11月に長野県(北信と東信)と筑摩県(南信と中信、飛騨地方)の二県。筑摩県の県庁は松本城内に設置・
- 同九年筑摩県庁が放火で消失。犯人は旧上田藩士で筑摩県庁がなくなれば長野県と合併して上田に県庁が置かれるのでは。
- 同九年筑摩県を廃止し、中信・南信を長野県に合併し、飛騨三郡は岐阜県へ

地図



明治４年に再編された長野県・筑摩県

③-2近年まで続いた分県論・移庁論

- 明治10年(1877)・11年長野県の管轄地域が広いため、県庁を上田に移転の伺いは政府が却下
- 同13・14年県議会で中信議員から移庁案が出されたが否決

※同13年高知県から徳島県などが分離独立

・同18年小里頼永松本市長が分県論を唱える

・同23年筑摩県の再設置と元老院が中南信の分県を求めたが却下

・同24年移転派の松本市民1万人が警察署を襲う

・同44年長野県庁が消失すると分県論が再燃

・昭和8年(1933)昭和恐慌時の分県論

③-3分県論・移庁論 II

- 昭和23年(1948)長野県庁の一部を消失して分県論拡大

　長野県議会定例会は殺気だっていたが傍聴席から「信濃の国」の大合唱。中南信から出された意見書は法定得票数に届かず

・同37年県庁新築で再び移庁論。翌38年松本・諏訪地区新産業都市の指定で県庁が同地区に新築が決定。

・国体と五輪は内輪で同意

①昭和38年やまびこ国体

②平成10年(1998)長野冬季五輪

※「長野」・「信濃」は歴史上難しい面があるのか

④-1 信州学の調査法

- 地理・歴史として書かれたものは定説であくまでも説である

1 鎌倉幕府が開かれたのは1192年から1185年へ

2 「聖徳太子」から「厩戸王」へ、しかし再び聖徳太子へ

3 世界的な地震の発生はかつては表示しない。20年ほど前からプレートテクトニクスから起因することを表示へ

※まず史実・定説等を疑ってみよう。そのあと調査したり、実証することで事実に近づけてみよう。

④-2信州学方法論

- 自分にとってふしぎなこと、疑問に思うことからはじめよう

地域史

①資料集め

　地域の歴史書として『長野県史』『・・・・市史』、古文書等

②地域の古文書や文献調査

　自宅、知り合いの家、市町村教育委員会、県立歴史館

　師と仰ぐ方をつくり伝授してもらう（調査方法、古文書の読み方など）

④-3 信州学方法論

資料整理(目録作成、撮影、ＩＴの活用)

③賛同者や同志を募る・・・グループをつくる。その中で関係分野に精通している人を加える。

④フィールドワーク・・・歴史関係でも当該地域に行く重要性

⑤最終目的を設定しよう・・報告集、報告会、書籍等で後世に残るものに使用

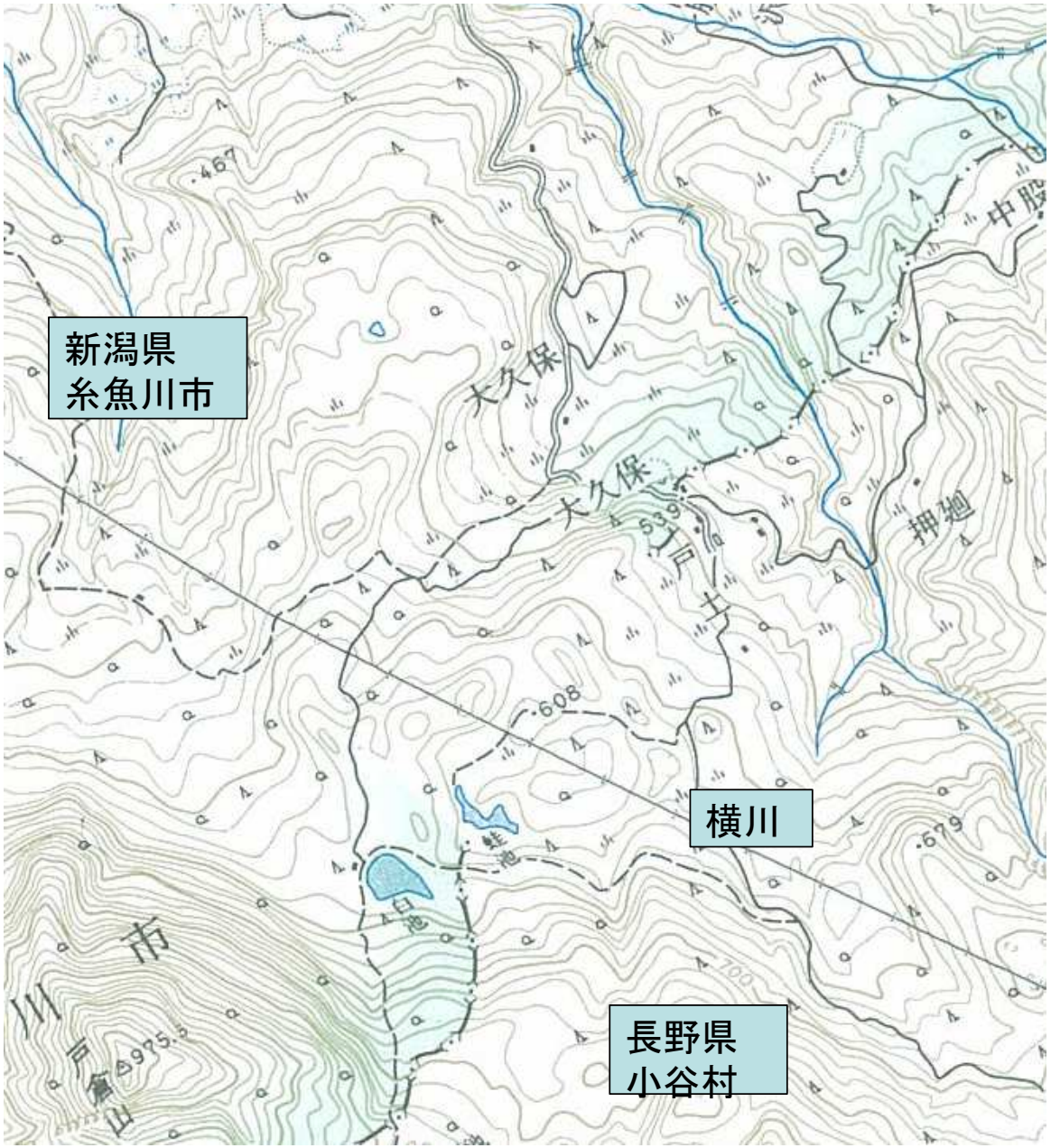
※調査で面白いもの・話題性があるもの

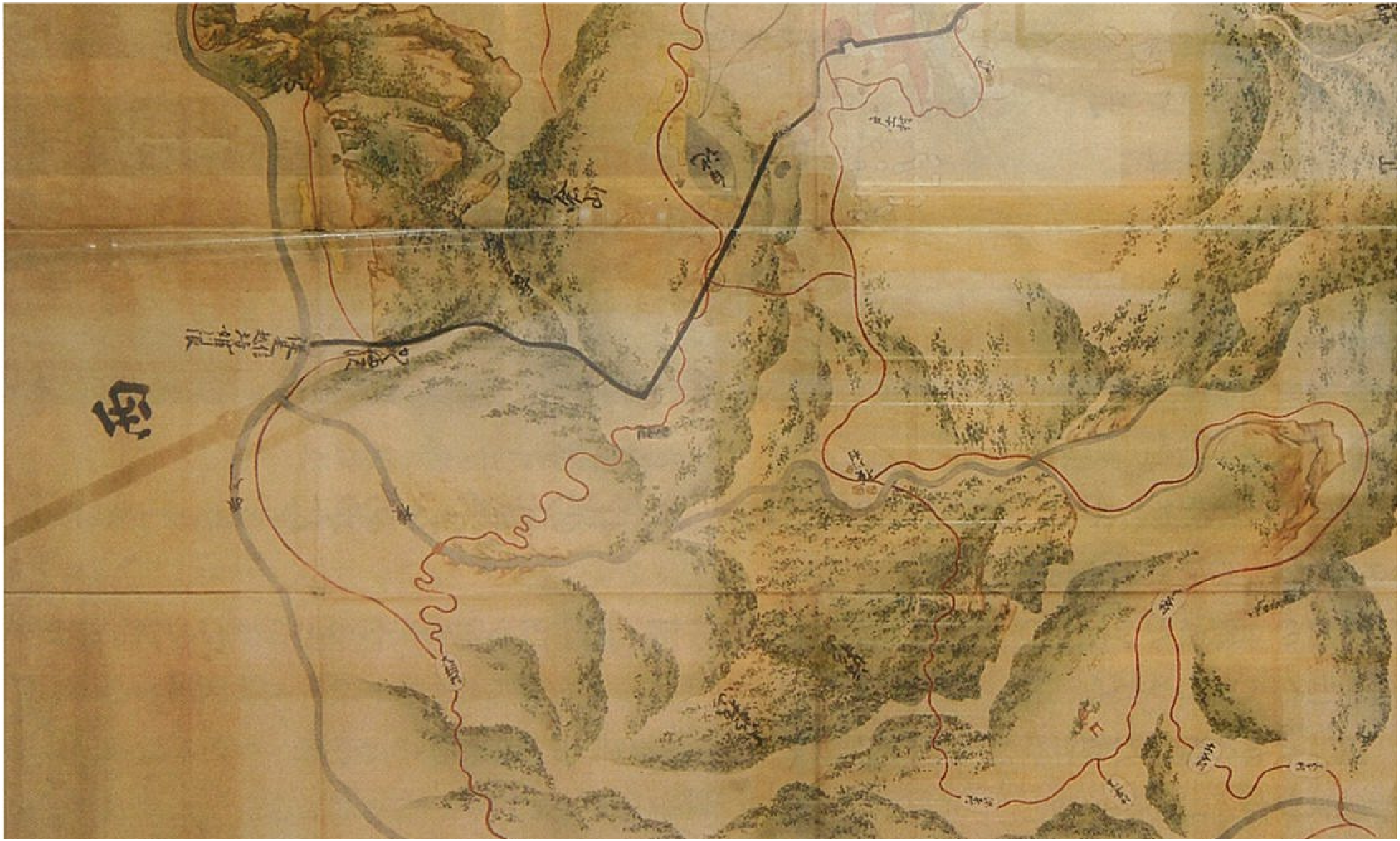
・山論・水論、地域の偉人伝、東山道ルート、積石塚・屋根型古墳と渡来人、現代に関係するもの(災害史・生活に密着したものなどが信州学の未来像に通じる)

⑤信州学の実践例

- **長野県には県境・市町村境未定地があるって本当か**、そのため**市町村には面積が決まっていない**ところがある
- 『長野県統計書』の記述、市町村合併について、明治22年(1889)市制および町村制施行、昭和28年(1953)町村合併促進法、平成7年(1995)合併特例法
- 歴史的経過から県境や市町村境が未定地
- 長野県には十数カ所、山地・山脈、河川・沼沢・湖沼、森林

〈事例〉小谷村と新潟県糸魚川市、長野県と新潟県


新潟県
糸魚川市
大久保
大久保
539
押廻
608
横川
長野県
小谷村
975.5



戦国時代から続く国境未定地

①戦国時代武田氏と上杉氏との抗争後、上杉氏が治めたが争いが続く

②元禄12年（1700）越後国頸城郡山口村（現糸魚川市牧区）の庄屋が幕府の評定所に訴える。信州の人が越後国に入り木を伐り困る。横川や戸土は糸魚川藩のもの。

③幕府は小谷の庄屋に、反論があれば証拠をだせと。小谷は証拠として、「正保国絵図」、戸土の境ノ宮諏訪神社の御神木に薙鎌、糸魚川藩が松本藩に横川の大木がほしいという願いの書状、横川や戸土の人々は年貢を小谷の庄屋に納めている

④反論を受け取った幕府は、現地検分を行った。裁定の結果は横川や戸土は信濃国側、白池は越後国側となった。

⑤境ノ宮諏訪神社と中股の小倉明神、白池を結ぶ線が国境となった

⑥境ノ宮諏訪神社と小倉明神ではスギの御神木に薙鎌打ち神事が行われている。これは諏訪神社における御柱祭の前年、諏訪大社の宮司により行われている。この神事は全国諏訪大社の中でもここだけ。

戸土地区境ノ宮諏訪神社の薙鎌

市町村境界未定地

- 富士見町と原村・・・立場岳と西岳の沢の西部
- 茅野市・富士見町・原村・・・諏訪南ＩＣ付近
- 河川が境界
  駒ヶ根市と宮田村・・・大田切川、飯田線大田切駅～中央自動車道大田切橋～新大田切発電所付近
  昭和29年宮田町が赤穂町と合併して駒ヶ根市して一端は境界がなくなった、昭和31年駒ヶ根市から分離して宮田村。以前から水利権で対立し現在まで
- 森林が境界
  小海町・佐久穂町・茅野市
  麦草峠から丸山、白駒池

信州学の未来形とは

- 長野県民、長野県に興味・感心のあるすべての方が自ら学び、疑問・不思議を解決することから始まるのでは
- 「信州合衆国」からの脱却、お互いに認め合い、興味・関心を持つことではないか
- 成果物として書籍・パンフレット・リーフレットにするのか

  観光や人々を呼び込むものにするのか等自由ではないでしょうか

  但し自分たちの調べた結果を多くの方に知っていただくことが

  重要、資料のデジタル化して発信する。

  　インスタグラム、所属地のＨＰ、アーカイブ化して拡大